

# 潮音寺だより

第 285 号

平成 19 年 7 月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



【誕生仏】 潮音寺蔵

天上天下唯我独尊  
てんじょう てんげ ゆいが ぞくそん

【出典】『大唐西域記』等

親 子供に頼るは 小人なり  
金 地位に頼るは 虚人なり  
曇 威光に頼るは 愚人なり  
賢き己 仏法に頼る こそぞ 大人なり



うことは、見まい見まいと蓋をし  
ている、死というものの蓋を取り  
払い、生と死を一つに見渡す生き  
方をするということをいっているのである。

生死

手桶に水を汲むことによって

水が生じたのではない

天地一杯の水が

手桶に汲みとられたのだ

手桶の水を

大地に撒いてしまったからといって

水が無くなったのではない

天地一杯の水が

天地一杯のながぼら撒かれたのだ

人は生まれることによって

生命を生じたのではない

天地一杯の生命が

私という思い固めのながに

汲みとられたのである

人は死ぬることによって

生命が無くなるのではない

天地一杯の生命が

私という思い固めから

天地一杯のながぼら撒かれたのだ

生死をみるみの「生命」という大地

に、どっから足をつけて生きるこ

とによって、はじめてそこに本当

の意味の生命力という、頼もしい

力が湧いてくるのである。

さらに、大きな自己を考える上

で、「仏」を、特別な存在と思う必

要はない。「諸仏は是れ大人なり」

つまり、「大人になれ」ということ

なのである。

大人の反対は小人である。小人

は、さしあたり自分の内に起って

くる我欲、渴愛だけで生きている。

それで、「腹減った」「あれ買って

と愚図っている。また、いつも人が

相手になつてくれる、遊んでくれ

ると思つている。そして、人が嘗め

てくれなければ愚図る。「わては

いかにも小人だ。

「大人」とは「自己が自己として

片付いて、愚図らない」ということ

である。たとえば、老人になつて、寝

たきりになつて、糞まみれになつ

ても、そのオレがオレのすべて、そ

れがオレの天地なのだ。これがオ

レの最高価値なのだ。何のため、誰

のためなどといわないで、私の最

高価値、私の天地を大事にして、

愚図らないで生きる、これが狙い

にならなければいけない……。

以上、老師の教え、自己一切切、

「唯我独尊」といっても、ひとりよ

がりのことではありません。西山

上人の御歌、「南無阿弥陀ほとけの

御名と思ひいに唱ふる人の姿なり

けし」とあるとおぼしびあります。

## 醍醐味 だいごみ

味の最上級の形容、さらには物や行為の極まりを表すことばとして、我々はしばしばこのことばを用いるが、もともとは仏典に登場する「五味」が起源。つまり、乳味、酪味、生酥味、熟酥味、醍醐味。これ、牛乳を精製していくと、しだいに生まれる五つの味なのである。その最上のものが醍醐というわけだ。

それでは、実際はどんな食べ物だったのか？ 現在のバター、あるいはチーズという説もあるがはつきりしない。『大般涅槃經』というお経には、「醍醐は最上にして、もし服する者あれば、衆病みな除く」とある。つまりは、薬効もあつたわけで、たっぷりの乳酸菌を含んだ甘くてトロリとしたも

のであつたことは確からしい。

さらには、この五味を修行者や一般大衆の素質、能力の深さの程度を表すことばとしても用いられた。また、釈迦の説法の仕方が、五味のようにしだいにレベルが高くなつていったといったとせにも用いられ、醍醐は仏の最上の教えをも指している。

ちなみに五味と並んで「八珍」という味の表現がある。牛、羊、トナカイ、鹿、くじか（小型の鹿の一種）、猪、犬、狼。これが転じて、珍味をそろえた食膳を表すことばとなつた。

（『仏教のことば』早わかり事典）

## 雑記

### ▼稚児募集

先にご案内しましたように、来



る10月28日(日)の位牌堂落慶法要での「お稚児」を募集中です。

お知り合いの方々にも、お誘いいただけますと有難いです。その節は申込み用紙を、必要数ご請求下さい。お願い申し上げます。

### ▼猫

お腹の大きかった外猫が、四匹子どもを産みました。一匹は弱く、ごつも死んだようです。親子でいるところはとても可愛いのですが、そこは野良猫魂、近寄るとすごい形相で怒ってきます。

### ▼駐車場

寺の北東、少し離れていますがお盆までに、三台分の駐車場を整備します。

### ◆網戸越し祭りの声の

賑やかさ、 沐魚